

文教福祉常任委員会意見交換会報告

去る1月17日開催の白山市保育士会との意見交換会について、その概要を報告します。

当日は、白山市保育士会の工(たくみ)会長を初め、役員、理事の方、合わせて10名が出席されました。

今回、保育士会から「保育の中で大切にしていること」、「保育士として頑張っていること」、「白山市の子供たちに育てほしい姿とその取り組み」、「保育の中での問題点」を発表していただき、その後「市内保育所(園)・認定こども園における保育現場の現状と課題について」をテーマとして、意見交換を行いました。その主な内容と意見について述べさせていただきます。

初めに、保育士不足についてであります。

白山市では未満児の入所希望が多くなっており、国の保育士の配置基準は満たしているが、一人一人により丁寧な保育をするために必要な人員が不足している。また、キャリアアップや保育の専門性を高める研修への参加、代休の取得などで職員が欠けることがあ

り、常時人手が足りない状況であるとのことであります。

保育士の皆さんは、「白山市の保育は全国的にみてもレベルが高いと自負しており、その質を落とさずに、保護者の希望にも沿った保育の実施に大変苦慮している」と話しておられました。

また、保育士の資格を持っていても保育の仕事を選ばないのは、すごくやりがいはあるけれども保育業務がとても大変で忙しいこと、子供の命を預かるという責任が重い仕事であること、同じように命を守る看護師などと比較すると給料が安いことが理由であるとのことであります。

次に、保育士の仕事量と働き方についてであります。

近年、保護者の働き方が多様化し、昔に比べて早朝・延長保育を利用する子供がふえています。それに合わせて、早番・遅番の割り当てや短時間勤務の保育士が多く、正規職員の保育士の負担が大きくなっているようであります。また近年、保育での安全管理、危機管理についての監査項目、求められる書類が膨大な量になっており、園でする仕事が多くなっているとのことであります。

次に、かかわりの難しい子への支援についてであります。

ます。

発達が気になる子供などへの対応のしかたについては、勉強会やケース会議、研修等で学んではいるものの、対象となる子供の人数がふえており、十分な時間が取れない状況であること。補助金の加配があっても、保育士を雇うには十分でなく、現状としては少ない人数で工夫して対応しているとのことでありました。

次に、保護者支援についてであります。

生活の多様化で大人に合わせた夜型の生活リズムの家庭や、忙しく時間にゆとりのない保護者がふえており、家庭での子育て力が低下しているとのことであります。保育士会からは、「今の世の中の実情として、家庭で保育するよりも専門的な保育士が保育するという子育ての方法が、保護者がゆとりを持って子供と接することができ、健全ではないかという思いがある。さらに家庭で保育している保護者への支援も考えると、もっとゆとりを持って保育に当たれる人員や環境を国レベルで考えてほしい。」という意見がありました。

委員からは、「保育士の皆さんは、保育現場に対応していくための能力を確保するため、日々自己研さん

を積んでおり、そのような仕事への高い意識・意欲が保育士を支えていると感じた。」という発言や、「保育現場にはさまざまな課題がある中で、保育士のやりがいに頼りきりになり、全てを託してしまっている。」という意見がありました。